

ロシア 東欧 経済速報

(社)ロシア東欧貿易会

2006年(平成18年)7月5日号 No.1367

目次

●ロシアのアルコール飲料市場と日本製品の可能性	菅原 信夫 1
●キーパーソン	9
新しい駐日ウクライナ大使が着任 / 9	
●ロシア企業新着情報	10
●エトセトラ	10
訪モンゴル経済交流ミッションのご案内 / 10	
世界一生活費が高い都市モスクワ / 10	
●ロシア東欧貿易会関連の行事予定	11
●CIS・中東欧諸国通貨の為替レート	11

特別寄稿

ロシアのアルコール飲料市場と日本製品の可能性

有限会社スガハラアソシエーツ 代表
菅原 信夫

はじめに

日本製アルコール飲料のロシアでの販売という課題は新しく、2000年以降、寿司ブームに乗って日本酒、梅酒が輸出されるようになってからの話である。筆者はソ連時代からロシアに携わっているが、1980年代にモスクワのWTCにあった和食レストラン「桜」で、日本酒が提供されていたことが懐かしく思い出されるが、1990年代前半まではほとんど変化がなかった。日本酒をオーダーする客層は、日本人を除けば日本駐在の経歴を持つ一部ソ連人のみで、それゆえ日本酒はヨーロッパからトラックで米、調味料類とともにソ連に持ち込まれる程度の量であった。

ロシアでレストランでの外食が一般化するのには1999年以降のことである。その頃からモスクワの街には猛烈な勢いで新しいレストランがオープンする。ロシア料理、ヨーロッパ料理から中央アジア料理、中華料理へと進み、2000年以降の寿司ブームにつながる。2006年現在、モスクワでは500店舗近くのレストラン、カフェで寿司が提供されている。